

観音崎自然博物館

海と生きる海岸植物の知られざる生態を調べよう

実施期間：2025年4月12日（土）～2026年1月12日（月）



【事業の内容・目的】

- 海岸植物を観察するとともに、生育地である海岸の環境を調べることで、海岸という海の影響を受ける限られた空間に適応している生態を理解し、生物と環境の相互的な関係から海の大切さを学ぶ
- 海岸植物についての簡単な試食および食堂の協力による昼食の提供を行い、食べるという行為から海岸植物への親しみを育むことで、その自生地である海岸への興味をもつきっかけを増やす

活動の様子

1. 海岸植物の生態を調べる体験学習

【開催日時】①2025年4月12日（土）10:00～12:00

②2025年7月6日（日）10:00～12:00

③2025年7月13日（日）13:00～15:00

④2025年7月21日（月）10:20～14:30

【開催場所】①②③観音崎自然博物館と近くの海岸、④三浦市毘沙門海岸

【参加者数】 59 人

【活動内容・目的】

- 海岸植物の生態を海岸の環境と合わせて調べることで、単に海の近くに生育するだけでなく、海の影響によって成立する環境とともに生きる存在としての理解を促す
- 海岸植物を試食し、食べるという身近な行為の対象とすることで、興味のきっかけを作り、生育する海岸への関心を高める契機とする
- 漂着による種子散布様式を持つ種がいることから、海岸の漂着ごみを清掃し生育環境の保全を図るとともに、海洋ごみへの問題意識を育む



海岸植物の観察



長い側根の先端まで掘り出したハマダイコン



ハマダイコンの試食



集合写真

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

参加者各自にルーペを渡し、主体的に観察を行えるようにした。海岸植物の葉が厚く発達している様子や光沢のある葉を持つ様子をみることができ、海岸という環境が内陸と異なることを実感してもらった。また、ハマダイコンを実際に掘り出してみることで、海岸という貧栄養な環境において繁殖するための栄養を蓄えていることや水を求めて根が変化している様子を観察した。さらに、ハマダイコンの葉と実を試食し、時には一面に群生しているハマダイコンが美味しく、魅力のあるものであると感じてもらった。



土壌の環境を測定する様子



地下茎による栄養繁殖の観察

海岸の土壌が持つ塩分を測定し、汀線から内陸へ向かう中で海岸植物が分布する場所は塩分をほとんど含まないことを調査した。海岸は一様に見えるが、海から陸へかけて変化を持っており、海岸植物のような適応した生物との相互的な関係によって多様性を持つ空間であることを認識してもらった。また、ハマヒルガオを掘り出してみることで、攪乱の中で定着できた個体が栄養繁殖によって空間を獲得できていることと、土壌の塩分が変化するバームの前端で地下茎の拡大と消失が繰り返されていることが確認でき、海岸植物が海岸に適応する仕組みについて実際の様子から理解してもらった。



漂着ごみの清掃



漂着種子(ココヤシ)

漂着ごみについて海岸植物にとっても生育や種子散布の阻害となる可能性があることを伝え、清掃活動を行った。漂着種子であることがわかりやすいココヤシの実が発見されたことで、海の環境を守ることが海洋生物のみならず多様な生物に関わることを実体験として学んでもらうことができた。



自然海岸での海岸植物観察



風衝による高さの変化

自然海岸が広い範囲で残されている場所で現地検討を行い、特有の景観や種を観察することで、海岸という環境が持つ特異性や内陸への変化について見学を行った。県指定の絶滅危惧種がここでは豊富に確認できることから海岸という空間が限られた環境であることを実感するとともに、海岸は海がもたらす波や風、潮に対して内陸との間で劇的な変化をしているかけがえのない生態系であることを確認してもらった。

【参加者の声】

- 海が海岸植物のようないろんな自然と繋がっていると感じた
- 身近な海岸にも貴重な植物が生育していることを知った
- 海岸植物に食べられるものがあることを知った

2. 学校との連携による海岸植物の生態調査

【開催日時】2025年8月5日（火）9:00～16:00

【開催場所】観音崎自然博物館と付近の海岸

【参加者数】37人

【活動内容・目的】

- 海岸植物が生育する砂浜において海の影響を調べるために、汀線からの距離を変えて土壌断面を記録し、剥ぎ取り標本を作製した
- 海が植物に与える影響を種組成や成長高から調べるために、汀線から距離を変えてベルトセクト法による植生調査を行った。また、海岸植物について観察してもらうためにさく葉標本を作製した
- 内容は簡素にしているが大学の実習に近い機材や作業を行い、将来近い分野の専門家になるかもしれない学生にきっかけを提供する



汀線に近い土壌断面



土壌断面記録の様子



調査プロットの設置



土壌塩分の測定

当日は40度に迫るような高温となったため、作業中の水分摂取や交代による休憩を行いながら少し内容を軽減しての実施となった。一方でこのような環境に生きる海岸植物の過酷さを強く実感することができただろう。午前中の海岸土壌および午後の海岸植生についてのどちらの内容も、陸上に生きる海岸植物と海からの影響が相互に関係することで海と陸を繋ぐ生態系の移行帯（エコトーン）が形成されていることを専門の調査を体験することで理解してもらった。作成した標本は成果として学校側にお渡しした。

【参加者の声】

終日高温の野外で活動したことによる疲労を懸念し、野外活動終了後は速やかに宿泊先へ移動したため、アンケートは実施せず

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

3. 海岸植物の立地環境を調べる体験学習

【開催日時】2025年9月27日（土）10:00～14:00

【開催場所】横須賀市走水伊勢町海岸

【参加者数】20人

【活動内容・目的】

- 海岸植物の生きる砂浜の環境を調べるために、土壌断面および剥ぎ取り標本の作製を行い、海岸植物が海からの影響を受けながら限られた空間でのみ生きていることを調べた
- お昼には海岸植物の魅力をより身近に感じ楽しんでもらうために、伊勢町海岸にある「かねよ食堂」でプロが作る海岸植物のランチを頂き、料理に使われた海岸植物および海産物について解説を受けた



海岸植物の紹介



土壌断面の作製



位置を変えて複数の断面を作製



汀線近くでは満潮になると海水が出てくる

海岸という環境の中で砂浜を構成する砂について観察し、標本作製する体験学習を行った。海岸の砂は波に運ばれ、風が移動し、海岸植物のような生物と相互作用を持ちながら、変化をしている環境である。計4つの土壌断面を作成し、汀線の近くと遠くや植物のあるところとない所で砂の粒や層に見られる違いを観察することができた。作成した土壌断面の標本は報告展示に使用した。



海岸植物料理の解説



海岸植物のプレートランチ

プロの料理として海岸植物を食べることで、ただの野草を食べるという経験ではなく、海岸のエコトーンがもたらす生物多様性の恵みを直に感じてもらった。地物の海鮮とともに提供されたことで目の前の東京湾の生態系を海岸から海洋まで丸ごと味わうことができた。

【参加者の声】

- 砂浜の砂に層があり、場所によって変化することを知った
- 海岸植物が美味しく食べられることに驚いた
- 海岸植物の専門的な調査が体験出来て良かった

4. 海岸植物生態調査の活動報告展示

【開催日時】 2025 年 11 月 1 日（土）～ 2026 年 1 月 12 日（月）

【開催場所】 観音崎自然博物館

【参加者数】 4003 人

【活動内容・目的】

- 体験学習で扱った内容を中心に海岸および海岸植物と海の関係を紹介する展示を行い、標本や調査の道具を見てもらうことで、来館者が活動に興味を抱き、海を訪れるための目的を増やすことを狙った



タイトル看板



展示の様子

解説のパネルに加えて、なるべく標本や道具といった実物を一緒に展示することで活動の様子をイメージしやすくした。調査そのものを実際に行うには道具や経験も必要となるため難しいが、簡単に比べられる海岸の砂の様子や目を引く海岸植物の花も展示することで、これらの簡単な観察から実際の海岸植物や海岸の環境に関心を持つきっかけ作りを目指した。海岸に雑草が生えているのではなく、海岸だから海と共に生きている海岸植物が生えていると認識する人が少し増えたことを期待している。

【参加者の声】

- 海と陸がつながっているひとつのものだと実感した
- 種子が漂着することで海がつながっていると感じた
- 植物にとって過酷な環境でありながらも、海と生きのびている海岸植物は美しい

【事業全体のまとめ】

海岸植物を調べるということで、ただ現地の観察をするだけでなく、実際に掘り出してみたり、砂浜の塩分を測定したり、穴を掘って砂を記録したり、時には食べてみたりと非常に変わった海岸植物のイベントを開催することができたと感じている。海岸植物の魅力は過酷な立地に生きる激しさにあると感じているが、それは普段私たちが海岸を見た際には実感し難いものであり、体験学習を通じて海岸の環境が植物という生物群には特殊な環境であると実感してもらった。このようなイベントを通じて身近な環境や生物が実は「すごいんだ」「面白いんだ」と感じてもらい、海洋や海岸と触れる機会を作ること、海岸植物を含む海から陸まで広く連続した生態系について意識が向くきっかけを今後も生み出していきたいと考えている。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 横須賀市港湾部	海岸での活動の許可
2. かねよ食堂	イベントでの食事提供および解説
3. サレジオ学院中学校高等学校	連携プログラムへの参加
4.	
5.	

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 地域情報誌 タウンニュース	美しく逞しく健気に生きる 2025年11月28日
2.	
3.	
4.	
5.	

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。